第14期　水彩・パステル科（9,10月の活動報告）

1.受講日　2026 年 9 月 7 日
2. テーマ　静物（3）　植物、果物、対象物を理解する
テキスト P21、 スライド パステル B

○ 題材の選び方は、大きさが違うもの、材質や色が異なるもの等、変化を表現できるものが良い。
○ ピラミッド型の構図が典型的で、明度や色相についても工夫しよう。
○ 背景の広い部分から一気に平塗りする（絵の具は余るくらい作っておく）。
○ 重ね塗りが主だが、1回で余り強い調子を入れない。
○ パステル画のスライド鑑賞（水彩画との違いがわかる）。
○ 午後より、先生によるパステル画の描き方の実技指導と個別指導
●サクランボの描き方で、「その色から塗るの？」から徐々に瑞々しいサクランボに変化していく様に感嘆の声があがりました。
●油絵的なタッチの素敵な絵を描いていらっしゃる方や生徒間の情報交換が盛んで、参考になります。
○ 8月の夏休み中に各自で描いた作品を発表しました。
力作揃いで感激です。



1. 受講日　2026 年 9 月 28 日
2. テーマ　風景（1）　風景のポイント（透視図法）
テキスト P22、23 および参考資料

○平らな紙の上に物を立体的に描くには、遠近法を使い視覚的なトリックで錯覚を作り出す。
○目線の高さにより、上の角度は「へ」字、下の角度は「V」字となる。
○奥行きを表すには、消失点を決め放射線状に線を引く。
○自然で美しい絵はバランスが大切である＝主になる物を中心に描くが、真ん中すぎ、端すぎ、下すぎ、上すぎ‥何事も「過ぎたるは及ばざるが如し」である。
○午後より、各自制作および先生による個別指導
●シマエナガ（北海道に生息する鳥）の羽毛のふわふわ感の出し方をパステルで実演して戴いた。シマエナガが何なのか先生に知ってもらうのに写真を見てもらったりし教室が和んでいた。
●木を描くときの色の出し方
木は茶系色で塗りがちだが、まず紫色に樹形を描いた後、上から茶系、黒系の色で描き進める（目からウロコ）の実技等々先生の実技指導は参考になり面白いです。
但し、自分のものにするには何枚も描いて試して行くしかないと実感！



○ふれあい交流祭について
出展数とサイズの確認および準備担当者の決定

1. 受講日　2026 年 10 月 5 日
2. テーマ　風景(2)　空気遠近法、額装について
テキスト P24 および スライド(日本画家の作品)

◯空気の層の影響を受けて遠くはぼんやりとしか見えない。この現象をスケッチの色と線に応用し、近くをはっきり、遠くを曖昧な感じで描く(色の空気遠近法・線の空気遠近法)。
◯遠くの山程青みがかっている(静物や人物にも使える)。
◯描かない勇気(捨てる勇気)が大切。
◯遠くの風景は明るくなる(遠くの描き方は色に水の量を増やす)。
◯重なり合った山に明度差がないと平板で遠近感は出ない。
◯額装
●描いた作品は一度額に入れる。額は絵により時々入れ替える。マットの選択も大事(額屋はクリーム色をすすめることが多い(無難なので)が・・・)。
◯午後は先生による個別指導



1. 受講日　2026 年 10 月 19 日
2. テーマ　風景(3)　空、雲、山、水面
テキスト P25、26

◯空は刻一刻と変化し、風の強さ、太陽の角度、時刻、季節によって違った表情がある。
◯好きだと感じた風景を描こう。
◯最初に見た印象を大切にしよう。
◯光の方向を考えて陰影を入れる。
◯水面は横タッチ、物が水に写って出来た影は縦タッチで描く。
◯ふれあい交流祭に向けて実際に額に入れた生徒さんの作品を見る。額に入れると一段と素敵になる。
◯午後は先生による個別指導
●クモの巣の描き方で先生の指導中、昆虫談義になる。蜘蛛は巣を食べるか＝種類によっては「食べる」だそうです。

